

令和2年度 病虫害発生予察 注意報第2号

令和2年8月6日
大分県農林水産研究指導センター
農業研究部

- 1 対象病虫害 果樹カメムシ類 (チャバネアカカメムシ、ツヤアカカメムシ、クサギカメムシ)
- 2 対象作物 果樹全般 (特にナシ、ブドウ等の落葉果樹)
- 3 対象地域 県内全域 (特に県西部、北部、東部)
- 4 発生面積 やや多い
- 5 発生量 多い

6 注意報発表の根拠

- (1) 県内3場所に設置している集合フェロモントラップにおける果樹カメムシ類の誘殺数(図1)は、宇佐市では7月以降多い状態が続いており、8月1半旬の誘殺数においても平年を大きく上回り、過去10年では多発した平成24年度、26年度に次いで多い。また、国東市では7月5半旬から急増し、8月1半旬の誘殺数は平年よりも多く、過去10年では多発した平成24年度に次いで多い。

その一方、津久見市の誘殺数は平年よりも少なく推移している。

8月1半旬の集合フェロモントラップ誘殺状況

宇佐 今年度:440頭 平年:14.5頭 令和元年:6頭、平成26年:762頭

国東 今年度:292頭 平年:39.6頭 令和元年:0頭、平成26年:84頭

津久見 今年度:7頭 平年:127.8頭 令和元年:34頭、平成26年:4頭

(平年値はH20年からR1年までのうち、多発したH24年、H26年の誘殺数を除いた10年の平均値)

- (2) 県内7か所に設置されている集合フェロモントラップへの誘殺数は日出町、国東市、中津市、日田市で7月下旬以降急激に増加しており、誘殺数は多発した平成24年よりも多い(図2)。

- (3) 現在までに県内のナシやブドウを主とした果樹園への果樹カメムシ類の飛来が認められており、ナシでは局地的ではあるが、まとまった飛来による被害も確認されている。

今年は、特にチャバネアカカメムシの増殖に好適なヒノキの毬果が少ないことから、梅雨明け後の気温の上昇に伴い、餌を求めて活動が活発になったと考えられる。

- (4) 福岡管区気象台が7月30日に発表した九州北部地方1か月予報によると、向こう1か月の気温は平年より高く、降水も少ないため、果樹カメムシ類の活動が活発になると予想される。

7 防除上注意すべき事項

- (1) 県南部におけるフェロモントラップの誘殺数は少なく推移しているが、餌となるスギ・ヒノキの毬果量は少ない状況であるので、餌を求めて果樹園に飛来する可能性がある。

園地への飛来時期や飛来量は地域や園地によって異なるので、園地の見回りを徹底する。特に、山間部や山沿いの園地は被害を受けやすいので注意する。また、飛来が多く見られたら一斉防除を実施する。

- (2) 薬剤散布はカメムシ類が園地に飛来する夕暮れ時から日没直後に行い、カメムシに直接薬剤がかかるようにする。
- (3) ピレスロイド系殺虫剤の多用は、天敵等への影響が大きく、ハダニ類の発生を助長するので、最小限の使用にとどめる。
- (4) 防除薬剤は作物によって使用できる薬剤が異なるので、大分県農林水産研究指導センター農業研究部病害虫対策チームホームページ内にある「大分県主要農作物病害虫及び雑草防除指導指針」を参照し、農薬使用基準（使用時期、使用回数等）を遵守する。

(ホームページアドレス <http://www.jppn.ne.jp/oita/>)

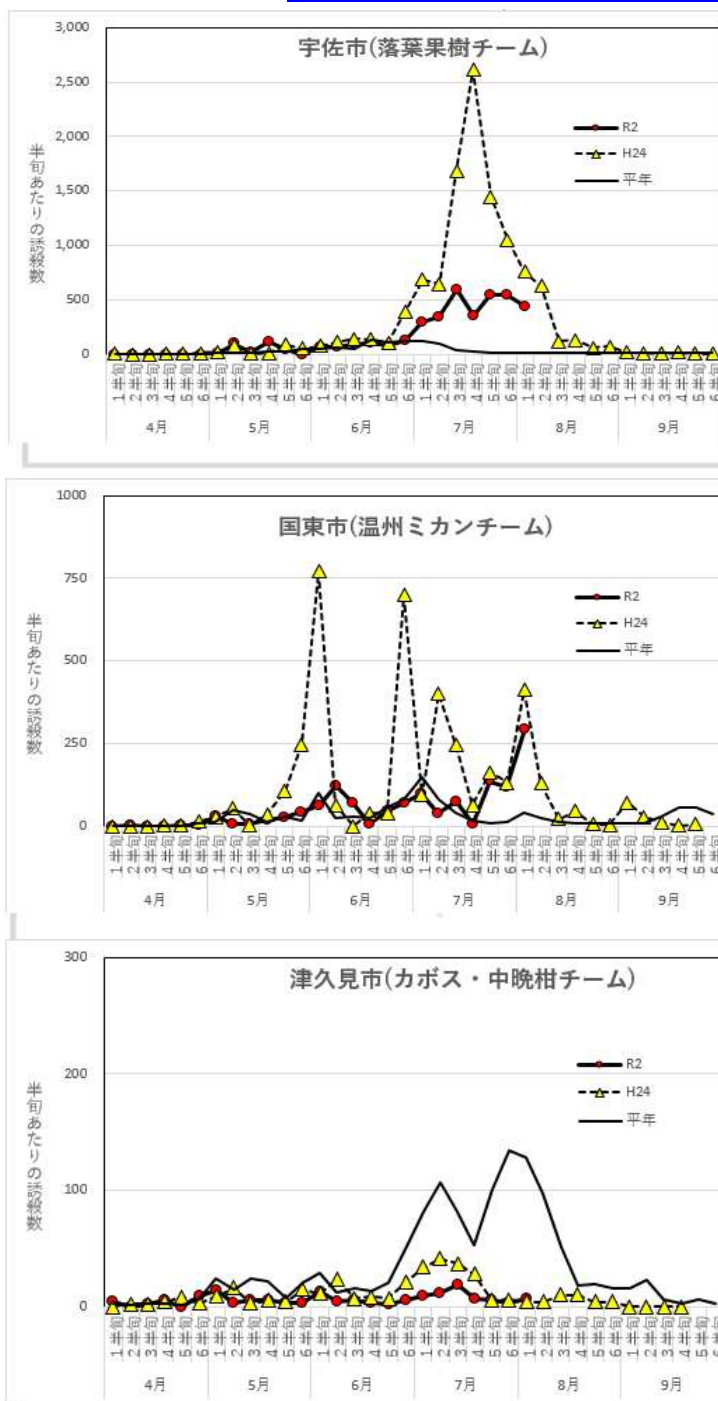


図1 県内3場所に設置した集合フェロモントラップへの誘殺状況

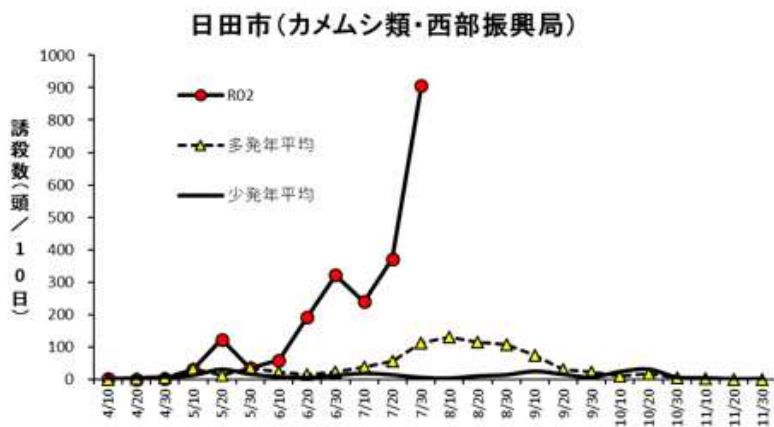
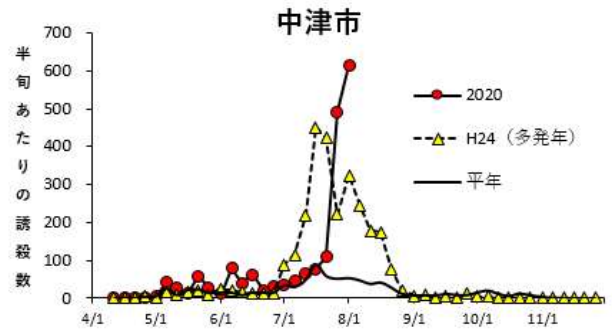
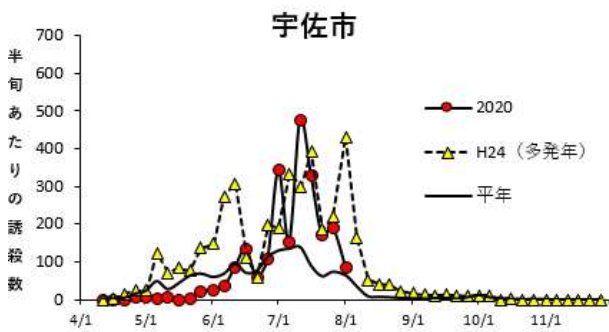
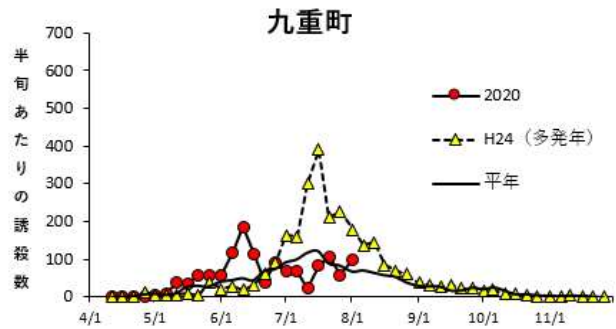
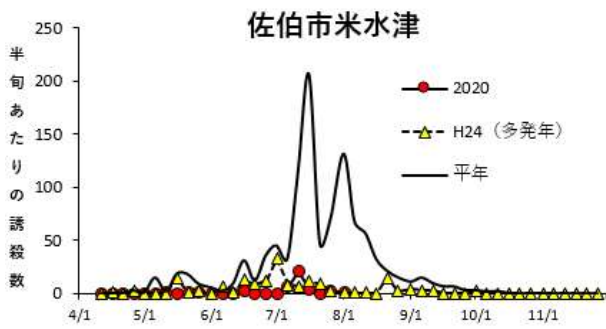
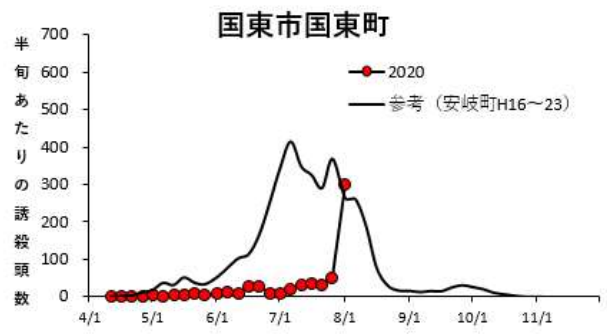
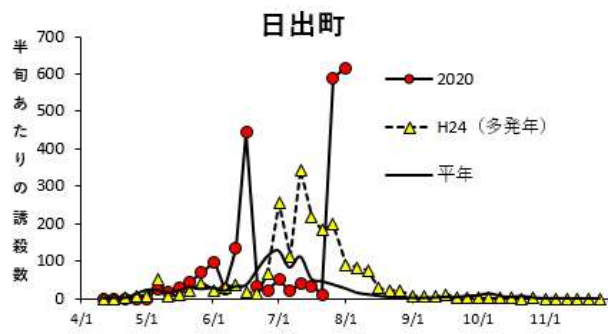


図2 県内7か所に設置した集合フェロモントラップへの誘殺状況